

福祉環境新聞

写真は中日新聞 1 月 21 日掲載「新聞作品コンクール」最優秀賞作品。静岡県掛川市和田岡小 5 年の佐野夢果さんが小学生の部で受賞した。このコンクールは「私が編集長」「世界に一つだけの新聞」を合言葉に作られた紙面を競うもので 3521 点が寄せられた。

フェイスブックで受賞を知ったが、何回読んでも字が小さく難解だと投稿したら、本物の新聞などを送ってもらった。大阪市立中央図書館で中日新聞を何回も探したが見つからなかった。送ってもらった新聞により、中日新聞「東海本社」版であることを知った。



じつは夢果さん（夢ちゃん）とは昨年 1 月 28 日に、名古屋金山の都市センターで初めて会った。車いすを巧みにあやつり、元気に「こんにちは」とあいさつしてくれたことが印象的だった。都市センター「まちづくり広場」をかけめぐり、「まちづくりライブラリー」では興味深く本を眺めていた。その後、フェイスブックでも「つながり」ができ、元気な学校生活などが伝わってきた。とにかく好奇心旺盛で、活動的な小学 5 年生だ。図書館が大好きなようで、きれいな景色が見えるライブラリーにまた来てみたいと。

写真では読みにくいので、夢ちゃん最優秀作品の紹介記事を抜粋して書き写しておく。一車いす利用者として参加したごみ拾いのスポーツイベントを写真や四コマ漫画、自身を含めた参加者の感想でまとめた。ゲーム感覚で楽しみながらごみを拾い、バリアフリーやノンバリアフリーのポイントを見つける。「こんな素晴らしい取り組みが広がれば、きっと優しくて温かな社会になるはず」と話す。制限時間内に定められたエリア内でごみを拾い、量と質をポイントで競い合う「スポ GOMI(ごみ)」。家族と一昨年夏に参加し、A4 判で 15 ページにもなった聞き取りメモや感想を「福祉環境新聞」に仕上げた。強調したい言葉やキーワードは色を変え、細かな説明は箇条書きにして、分かりやすいように工夫した。「いろいろな人の思いが重なって始まった。多くの人に新聞を読んでもらい全国に広がってほしい」と期待する。

夢ちゃんのセンスの良さを感じさせる、最優秀賞にふさわしいに福祉環境新聞である。これからも、いろんなことにチャレンジして、夢ちゃんならではの力を発揮して行ってほしい。新聞離れが話題になるが、こうした取材にもとづく新聞づくりは貴重な体験になり、新聞への関心も高まると思う。

(2018 年 2 月 3 日)